

3. 膠原病とは

膠原病は複数の病気の集合体

膠原病とは、一般には馴染みのない言葉です。膠原病という言葉から、すぐにどんな病気であるかを理解することはできません。高原病や高山病と間違える方もいます。

一方、膠原病＝難病と漠然と考えている方もいます。しかし、膠原病の中でも重症度は様々であるのが実情です。

膠原病は特定の病気を指すのではなく、いくつかの病気を総称して名づけられたものです。

膠原病の名前の由来

膠原病という名前を初めて使ったのは、病理学者のクレンペラーです。彼は様々な臓器に次々と病変が起こり、原因不明で亡くなる患者さんの病理組織を検査した結果、膠原繊維に共通する病変（フィブリノイド変性）があることに気づき、1942年に『血管および結合組織にフィブリノイド変性のみられる疾患』を膠原病と呼ぶことを提唱しました。

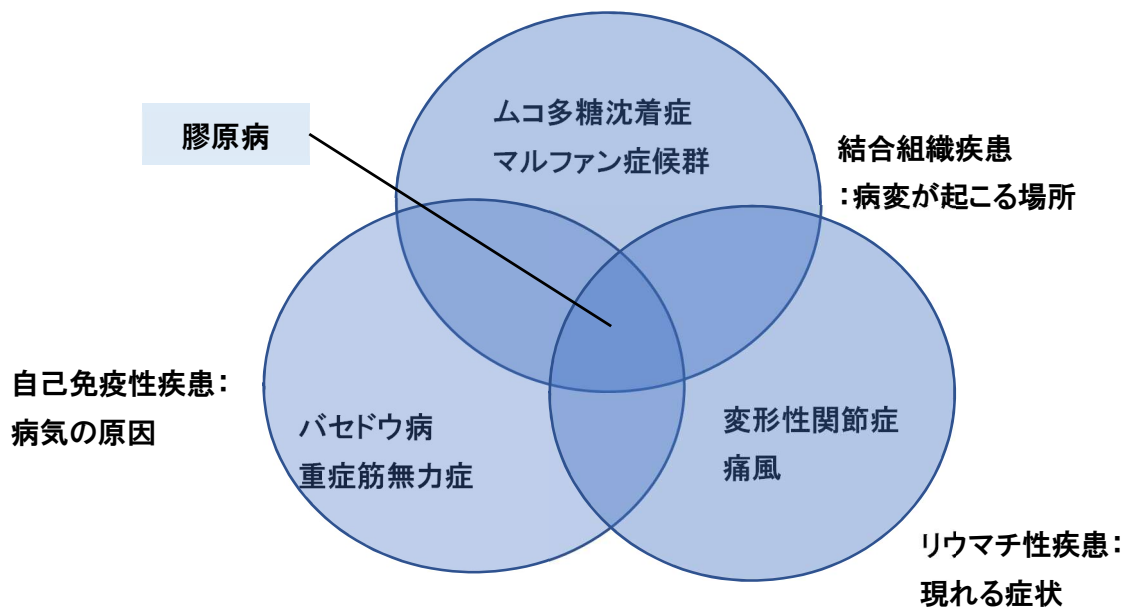
「膠原」という名称は代表的な結合組織である膠原線維：コラーゲンに由来しています。

膠原病の3つの共通点

膠原病は複数の病気の集まりですが、これらの病気には次のような共通点があります。

- 炎症による関節痛、筋肉痛、こわばりなど症状がある＝症状からみた特徴：リウマチ性疾患
- おもに細胞と細胞をつなぐ「結合組織」に病変が起こる＝病変からみた共通点：結合組織疾患
- 免疫の異常（自己免疫）がみられる＝原因からみた性質：自己免疫疾患

膠原病は、この3つの疾患グループの要素を同時にあわせもつ病気です。



膠原病は治る病気か？

一般的な病気のような「完全治癒」に至ることは困難ですが、「不治の病」ではありません。治療によって病状のコントロールは十分可能です。治療が効果を示し、病状が落ち着いた状態を「寛解」といい、寛解状態であれば、ふつうの人と同様に日常生活が送れます。寛解状態から再び病期が悪化することを「再燃」といいます。膠原病は慢性の病気が多く、寛解と再燃をくり返すのが特徴です。寛解状態に到達し、それを維持することが治療の最大の目標となります。